by Rousseau. Translation with notes and 24 additional letters. London 1785. ed. 2, 1787. ed. 3, 1791. ed. 4, 1794. ed. 5, 1796. ed. 6, 1802. ed. 7, 1807. ed. 8, 1815. ——: Thirty-eight plates with explanations intended to illustrate Linnaeus' system of vegetables and particularly adopted to the letters on the elements of botany. London 1788. ——: The language of botany. London. 1793. ed. 2. 1796. ed. 3. 1807. ——: Thomas Martyn's Inleiding tot de kruidkunde etc. In het fransch en hollandsch door J. van Noorden. London 1798. Miller J.: Illustratio systematis sexualis Linnaei Londini 1777 (folio) ——: An illustration of the sexual system of Linnaeus. London 1779, ed. 2?, 1794. vol. 2. An illustration of the termini botanici of Linnaeus 1789. Sprague, T. A.: Bibliographical notes cl. John Sebastian Millerr's "Icones novae". Journ. Bot. 74: 208-209 1936.

□Inoue, Hiroshi: **The genus *Plagiochila* (Dum.) Dum. in southeast Asia** vi+142 pp., 76 pls. 1984. アカデミア洋書, 東京. ¥8,500. 著者の井上浩博士についてはいまさら紹介の必要はないが, 本書は著者が多年手がけて来た苔類ハネゴケ科のうち, 東南アジア産ハネゴケ属を取りまとめ, 文部省の出版助成により出版されたものである。ハネゴケ属は苔類の中でも極めて多数の種類 (約1600種) が記載されており, 現在では種の同定も暗中模索の状態である。著者はこれまでにも, ヒマラヤ, 日本, 台湾, セイロンその他の地域のハネゴケ属の種類を明確にして来たが, 本書では東南アジア産ハネゴケ属を48種に取りまとめ, 世界のハネゴケ科の分類システムを論じている。ハネゴケ科に 3 亜科 (内, 1 新亜科) 6 属を認め, ハネゴケ属を 4 亜属に分類し, 各々をいくつかの節に分類している。節の分類は基本的には H. Carl (1931) のシステムに従っているが, 多くの新知見を盛り込み, 命名上の変更, 改定がなされている。図版は著者独特の見事なもので, 各々の種の特徴, 変化がよくつかめるようになっている。蘚苔類関係では日本から出版された久々の本格的モノグラフである。 (出口博則)

□佐竹義輔: **花のある風景** 217 pp. 1984. アボック社, 鎌倉. ¥2,500. 著者が雑誌などに発表した随想や解説, 対談を集めたものである。著者のおだやかな性格をうつして, しみじみした感じの文章が多い。学生時代の話など, あらためて参考になる。川村カウ氏と牧野富太郎氏を語る対談は戦争中の裏話で, はじめて聞くことである。巻末に略歴と学術論文目録がある。 (金井弘夫)